しているとは

なすことが出来ましたが、撤収操作で筒先を担

大会当日は一発勝負で、放水操作は順調にこ

第60号

第四分団バス研修会

目となるバス研修会が行われました。第八分 平成三十年十一月、第四分団としては二回 第四分団 第一班 班長 垣中 祐二

第四班の皆さんも参加し、総勢二十四名で

きました。

りましたが天候にも恵まれました。 目的地は横須賀。船による軍港めぐりと海 自衛隊横須賀基地の視察です。肌寒くはあ

んでおられる姿勢を感じました。消防団とは

た礼節を感じ、日頃の訓練に自主的に取り組

たが、穏やかな語り口の中に、きちんとし

また、若い自衛官の方に説明をいただきま

違って職業として従事されていらっしゃいま

でも珍しい景色を見ることができました。 ま **車基地にはカナダの船も入っており、横須賀** で生まれ育った私には、どことなく懐かし に何隻も潜水艦が係留されており、広島の呉 一海に浮かぶ護衛艦などを見学しました。米 横須賀汐入桟橋から蒸気船を模した船に乗 右に米軍基地、左に自衛隊基地を望む形 ことを再確認した、非常に有意義な研修会と ました。私たちも地域のために、きちんとし すが、根本は同じです。地域か国かの違いは なりました。 ありますが、共感できる部分がたくさんあり いたします。ありがとうございました。 た礼節をもって活動を続けなければならない

日の昼間はうら寂しい感じは否めませんでし を視察しました。日本なのにまるでアメリカ 刀の雰囲気を十分に醸し出していました。 たが、 道行く米軍の職員たちがリトルアメリ **怭通り」は短く、夜の店が多いと見えて、平** を思わせる街並みを体験。 思いのほか 「どぶ 昼食後、海上自衛隊横須賀基地を訪れま

チャーをいただき、国防の何たるかを教えて まず、会議室で自衛隊についてのレク

とができまし の範囲を見せ 乗船させてい 衛艦 「村雨」 に ただき、かなり た。その後、護 ていただくこ

いただきまし

り、当時の団員の人達は子供の頃から私も知っ ている人ばかりでした。勧誘に来られた時、い |歳の時でした。 父が消防団にいたこともあ れは地元で何らかの形で少しでも役に立て 私が消防団に入団したのは平成四年、三十 第一分団

ればと考えていた私は、班長の「やれる時だけ、

た。建造後二 ·四年程経過 回の練習を繰り返し、何とか格好がつくよう ニュアルと諸先輩の経験による指導が頼りで 当時はビデオやDVDもなく、配布されたマ される夏季訓練会の小型ポンプ操法の選手 や訓練礼式を教わり、一か月後、八月に開催 に見事に乗せられ入団を引き受けました。 した。五月の連休明けから約三か月間、週二 (一番員)として出場することになりました。 入団してすぐに、消防団員としての心構え

入団二十五年を

第一班 班長 岩田 正吾

振り返って

く、故郷の景色と重なりました。 下船後、横須賀観光名所の「どぶ板通り」

出られる時だけ出てくれればいいよ。」の言葉

体制がいつも整っていると感じ取ることがで る備品類も十分に手入れが行き届き、万全の が徹底されていることがよくわかりました。 に美しく、自衛官のみなさんの日頃の手入れ 当然ではありますが、消火活動等で使われ 平成31年4月1日 横浜市港北消防団 ることで、操法技術や基本動作を身につける 消防団員として活動する今の自分の大きな支 ことができました。この時の貴重な体験が、 係として自分の失敗談を伝えながら人に教え 脱落してしまいました。焦った私は二本目の や先輩方の言葉は今でも心に残っています。 **はがらよく頑張ったよ。」と労ってくれた班長** 米となってしまいました。 一緒に参加した選 **小―ス巻きでもミスを重ねてしまい、無残な結** の足を引っ張り落ち込んでいる私に、「新人 のちの訓練会では、指揮者・一番員の指導

ことは云うまで えとなっている もありません。

動を通じて地元がら、消防団活 時の減災に努め ていきたいと思 の防火防災・災害 今後も微力な

第一分団第二 第一分団 第二班 副班長 蛭田 恭章 城郷地区の紹介

今回の研修にご協力いただいた方々に感謝

私達の消防小屋が、老朽化を理由に、平成二十 九年度に建て替えられました。旧小屋を解体 地区について、三つのことをご紹介します。 私達、第一分団第二班は、小さい山、鳥山を囲 むように住宅が立ち並ぶ地域、鳥山町を管轄 し、新しい小屋ができるまでの間、仮小屋を浩 している消防団です。第一分団第二班と城郷 昔は鳥が沢山いたので名付けられたのか? 永年に渡り、消防活動で使用してきました

その仮小屋に積載車 が、団員には大工を 新しい小屋を拠点と 納しました。現在は、 や器具を一時的に収 派な仮小屋ができ、 いて、皆の協力で立 はじめ職人が何人も ることになりました し、災害対応や広報

ら訓練を始め、小机消防出張所長のご指導の 等を実施しています。 もと、選手とサポートする団員が一つとなり 昨年は、ポンプ操法大会の当番で四月か

しっかり訓練をしたかいがあって第二位の成

を降ろそうとしたら被っていたヘルメットが

います。

密集地域に配備をさ

場から10ミリホース 練をするとのこと。 のノズルでの放水訓 れているガンタイプ

を取り出しますが、 まずは消防器具置

このホースが重い!二人で一本の巻きを運び 水。10ミリのホースの圧力損失は低いので、 ホースブリッジは必需品です。しかし、この スを絶対に乗り越えることができないため、 リッジを設定することに。特に軽自動車はタ から、一般車両を通行させるためホースブ ます。さらに一般道をホースが横断すること ところで地下式の消火栓より吸水した水をポ 斜面の中腹の組立水槽までホースを展張した 集水媒介で≥リ1本に集め斜面中腹まで送 ンプ車で加圧をして65ミリのホース4本分を ホースブリッジがまた重い!ようやく公園の イヤが小さく、水の入った100ミリの太いホー

れたのはとても良かったです。 績を得られました。団員の結束も同時に得ら

域の観光振興を図るため、二十五年前から毎年 参加したり、また警備に従事しています。地域 ますます多くの方が訪れるお祭になると思い マンスもあって年々賑わいを増しています。 ありました。小机城の由来や歴史の普及と、地 り続けてもらえる様にと願っています。 の活性化、また小机城址の歴史を次の世代に語 ます。私達も地元の消防団としてパレードに 本丸では出陣式の演出や地域の方のパフォー 四月に小机城址祭が開催されています。武者 行列を始め沢山の人たちがパレードに参加し、 小机城は続日本一〇〇名城にも選定され、今後 は建てられた小田原城の支城である小机城が

そして明るい街づくりにも貢献していきたい と考えます。 これからも皆さんと協力して防災に努め、

篠原西町公園での 第二分団 第一班 山﨑 署団の連携訓 練 通

園に、 港北消防署長をはじめとした署員の方 と二分団の消防団員が続々と集まってきます。 平成三十年十二月八日、朝から篠原西町公 今回は、10ミリホースでの大量送水と木造



このまま40ミリのホース4線での放水が可能 とともに、続いて降車する乗客の なったら運転士または車掌に「消防団です。」 以上)発生、③地震による津波発 座り足を車外に出した後、直接地面に降りま と声をかけてもらうと心強いとの 電車内外で火災発生、などの異常事態が発生 合の補助です。 開放したドア部分に 面に降りる避難方法)しなければならない場 つは、直接降車(開放されたドアから直接地 し、乗客が最寄りの駅まで線路を歩いて避難 てほしいとのことでした。そのような状況に しなければならなくなった場合に、 (車両前後に二台)の設置補助です。もう一 具体的にどのような協力をするかについ ①電車内での停電の発生、②地震(震度4 一つ目は、緊急避難をする際の非常梯子

水槽に水を溜め、団の可搬ポンプと署のポン ですが今回は分水媒介で65ミリ4本に分けて 避難するという協力をしてほしい ある程度乗客が降車したら、次 は率先して のことで

頂きました。

私達の住む城郷と呼ばれる地区は、戦国時代 と消火の訓練を実施し、各箇所の プ車で加圧をしての65ミリホース 離れたところにある消火栓や自然 をしました。今回の大量送水訓練 本に分水をして住宅火災を想定し

消火に使えるため、大規模災害時 に対応ができることが確認できま 中原消防団との合同研 電車からの避難誘導訓練原消防団との合同研修 団本部 部長田

した。

住吉総合事務所にお 車走行時、駅間にお が行われました。 防団との合同研修 停止し、乗客の避難 ける事故により緊急 いて、川崎市中原消 十二日、東急電鉄元 (副分団長以上対象) 平成三十一年二月 今回の研修は、電

くありました。ここでは、我々消防団員に望ま 両を使用しての訓練が行われました。電車の うな行動をとればいいのか、について実際の車 れる協力について報告します。 乗務員の方からは、消防団にどのようなことを た場合に、支援に駆け付けた消防 誘導等が必要となっ してほしいのか、といった点のレクチャーが多 員がどのよ

ことです。 **生予想、**④ て降車する にいったん 応援をし 動が疎かになっ る時間が長いた 地域を留守にす の仕事が忙しく、 てしまっている め、こうした活 自分への戒めと





け付けた消防団員が す。災害発生時に駆 います。 なることが望まれて 自ら率先して危険を 避ける行動を起こす 、「率先避難者」に

気分の力 第三分団

第二班 村上 祐資

川博幸

七十二時間以降のことではないでしょうか。 れています。しかしながら、本当につらいのは とき、災害発生後から七十二時間以内を生き 延びるための訓練、 心に行われているとともに、活発な議論も行わ に関しては、多くの企業や自治体を中心に熱 大災害発生時における防災の現場を考える また防災グッズ等の普及

実感を積み重ねて行く「気分の力」が大切に ることへの意志の力よりも、日々生きている るような人間らしい感情をも奪ってしまうこ とがあります。それに対するには、生き延び 所暮らし、また大なり小なり不安と正義の押 レスは、時に私たちから些細な喜びを楽しめ かばかりの寝床もある。けれど人の目を気に ではあるが食べ物や飲み物も足りている、僅 いのか先の読めない不安を抱えながらの避難 しながらの共同生活やいつまで辛抱すればい 付け合いが生じる人間関係。こうしたスト 命は助かり、公的な支援によって、最低限

それは地域の方々と、行事等を通じて交流す の力」の領域の活動が多くあるという点です。 ることなく活動を行う。これは「意志の力」 直後の活動がまず重要になります。地域の事 きな力になるのだと思います。なかなか自分 人との関係の積み重ねは、いざという時に大 ることであったり、こうしたささやかな人と から気づいたことは、これらとは別の、「気分 の鍛錬の領域です。しかし消防団に入団して 情に精通した消防団が、迅速、的確に、乱れ 地域の消防団の役割は、一般には災害発生

第四分団 第二班

班長 小泉 博之

第60号

地域防災拠点訓練に

会から選出された約八十名で運営されていま 域防災拠点訓練が行われました。当地域防災 す。毎年、小学校の保護者参観日に合わせ、児 拠点は区域内に四つの自治会があり、各自治 行われます。 平成三十年十月二十七日に綱島東小学校地 区域内の住民が参加して訓練が



り、また消防団の重要な役割でもあります。 員から住民の皆さんに装備品の使い方を直接 率先して活動いただけるようにしておかなけ 運営時に消防団員がその場にいなくとも、そ のほとんどの皆さんは使い方がわからないの ター・チェーンソー・油圧ジャッキ等)は、我々 防災指導を担当しています。特に防災備蓄庫 ではないでしょうか。災害発生時及び避難所 **にある装備品(発電機・投光器・エンジンカッ** ばなりません。この訓練において、消防団 らの機器を住民の皆さん方で使いこなし、 クチャーすることは、非常にいい機会であ 防団員は扱い方を熟知していますが、住民

が一体となって、毎年訓練を積み重ね、 常に重要です。今後も地域と小学校、消防団 児童が犠牲となった石巻市大川小学校の保護 の防災力を高めていきたいと思っています。 くして聞くことはできませんでした。 た。数名の団員も拝聴させていただき、 者をお招きし、体育館で講演会が行われまし 災害発生時にはどう行動したらよいかが非 地域 涙な

消防団に入ると…… 第五分団 第四班 森山

供の憧れになります! ①あなたの街の防災に、確実に貢献できま -・②ご近所仲間が一気に増えます・

三点はそんな私が自信を持ってお伝え出来 る、消防団入団あるあるです 平成二十八年四月に入団させていただいた 十代サラリーマンの森山と申します。 右の

その前に入団の動機です。私はあの東日本

いたのですが、 ていただいて 大震災に際し、 ィアをさせ 害ボラン



と思いました。であればこそ、地元の防災に のきっかけでした。 少しでもお役に立てたらと考えたのが、入団 一これは日本のどこでも起こりえる事かも_

の確保もままなりません。

実際の使い方を会得できます。 り、道路にオレンジで囲われている消火栓の まず①ですが、街中の赤い消火箱だった

界なので色々なお話が聞けるのが面白いと感 五人の仲間が出来ました!それぞれ異なる業 ②に関しては、私の場合は入団と同時に十

で固めて写真撮ってあげると、すごく喜んで 注目!背景をはしご車にして左右を消防団員 ③番目、出初式の時など幼い子供たちが大

より遥かに良いだろうとの思いに至り、団の 活動に参加させていただいております。 力では無い。」という言葉に接し、何もしない てたらと願っております。 にそれほどお役にたてないかも知れません。 これからも地元の防災に少しでもお役に立 かし東北に行っていた時に「微力だが、無 日頃はサラリーマンなので、いざという時

町内会との連携 第六分団 第六班 班長 中尾

今年は、東日本大震災で津波により多くの

火そのものは一度も無い現実があります。 照明、残火確認等の経験はありますが放水消 経験では火災出動現場での活動は交通整理、 ルからの放水等見せる活動が主でした。 私の 私が二十年前に入団した頃の消防団活動 防災拠点訓練でのポンプ操法実演、プー

会が増え、その資機 イプ式初期消火器具を購入する自治会・町内 れるようになってきました。またスタンドパ 想定して消防団と消防隊の連携訓練も実施さ 最近は大規模災害や道路狭隈地域火災等を

えてきています。 活動内容も徐々に増 材を使用した初期消



することになりました。

初めての活動は寒さの厳しい中での農専訓 その後は秋の火災予防週間、

生かした、その町、その町会の問題を掘り下げ 対策を事前に検討して頂きたいと思います。 ない大規模災害に備え、想定されることへの 要かと思います。過去の大規模災害の教訓を ていくことが課題で、いつ発生するか分から しましたが、今後は町内会との連携強化が重 消防団共通の課題は団員不足で、新入団員

多いという現実があり、町会一体となるには 員は、定年延長の選択肢も柔軟に認めていく し身体健全で活動実績が高く継続希望する団 ことが高齢化社会に対応すると確信します 残念ながら消防団員が一人もいない町会が 員確保も重要課題であります。それと並行

港北区消防出初式を終えて 第七分団 第七班 髙橋 良昌

見学として訪れたことはありましたが、今年 からは見学される側としての出場となり、や の港北区消防出初式が行われました。何度か 月五日、穏やかな晴天のもと、平成最後

だろうという、周りからの声もありました。 三年以上経っての入団となります。他にもボ 上何かやるのは大変だから止めたほうが良い しかし一番気に掛かり躊躇していた要因は 私は消防団に誘われるようになってから、



考えが変わってきました。最後には、自分自 動要請があっても当然駆けつけるが出来な 身で納得することができたため、入団を決意 る範囲での活動でも良いのではないか?」と 必要性を根気強く聞かされることで、「出来 た。それでも数年にわたり、消防団の現状と になるので、無理だろうな」と考えていまし い。「土日以外はほとんど何も出来ないこと

出初め式予

申し上げます。

ります。今後とも消防

过活動のご理解と「港北

協力をよろしくお願い

(黒川)

体となった地域防災の重要性を再認識してお

第七分団 第六分団

勉

八分団

八規模自然災害が発生し、消防団と地域が一

年編集に携わる間に、 やすい誌面となるよう

日本の各地で想定外の 心掛けました。この一

第五分団

恵通

山本 田辺

忠夫

第四分団

黒川

亮

回のバランス等を工夫し、より読みやすく見

力に興味を持っていただけるよう、写真と文

十一期編集委員

第三分団 第二分団 第一分団

吉田 峯岸

Ī

村田

義孝 庸明 (編集委員長)

ただくことを目的としています。より多くの

は、消防団活動を地域の皆様に広く知ってい 様には心より御礼申し上げます。この広報誌 る範囲での参加を行うことが出来ました。 年末特別警戒の見廻り出動と、出来

資機材取扱いを

つこと

はるみ

相本本本本本本本副副副消 談部部部部部部団団団防 役部部部部部部長長長団 長長長長長長

消防団に入団して 第七分団 第七班 長瀬

私が地域防災



導する様子など、メディアを通して伝わるリ という生き方を自己の人生において改めて省 不眠不休の消火活動、 念が心の奥底から湧き上がり、「他のために」 る力強い姿を見たときに、人間力への畏敬の 色の中、孤立した住民を安全な場所に避難誘 アルタイムの活動や、復興へ向けて立ち上が 絶望、悲しみ一

また、PTA活動においては、いかに多く

団の一員として成長したいと思います。 ありませんが、自分たちの地域は自分たちで と思います。そして、少しでも早く少しでも 備える防災意識の向上にまずは取り組みたい 守るという連帯意識と、火災を防ぐ、災害に 止確に消火活動ができるように、日頃の訓練 入団して日は浅いので、知識や経験は未だ

そして迎えた出初式。改めて地域に貢献す 消防団活動を続けて行こうと思いま 第八分団 第七班 副班長 高橋

つようになった に強い関心を持

令時の水門閉鎖、 日本大震災と、四 のは、八年前の東 大規模火災時の では、津波警報発 中学校でのPT 年前に経験した A活動です。 東日本大震災

みたことを昨日のように思い出します。

像以上でした。

域の役に立てる活動に取り組みたいと思い、 つ、もっと仲良くなりたい、そして自分も地 方々でした。そんな皆さんに敬意を持ちつ の繋がりが希薄化していく中で、私が出会っ た新羽町会の皆さんは、地域の一員としての 謝の気持ちを持ちながらの活動でした。 生活を送ることができる環境を頂いているか の方々に見守られて子どもたちが安全に学校 目覚が高く、地域の今と未来を真剣に考え、 を実感し、地域の皆さんに対する心からの感 「他のために」をいつも考え実行している 時代の変化に伴い、現代社会では人と人と

をお寄せくださった消防団員及び各方面の皆

本

部

長瀬

進

とうございます。また

港北の消防」をいつ

しもご覧いただきありが

本

部

加藤

修

(編集顧問)

日々お忙しい中、原稿

雅嗣

加者は五十名。各地での震災も多 材取り扱い訓練に参加しました。 寒稽古」というにはほど遠いですが、資機 一十四節気では一番最後の季 節、大寒。

と部品一つ一つの名称と意味、そしてどんな 現場で使うのかを学びました。 さんの意識も高くなっていたようです。訓練 ではグループ別に六種類の資機材で 今回は女性消防団対象ということもあり参 の取扱い方 いためか皆

う面に感動。自身の指一本で資機材がオンに えると集中力も想 も人の手。放水もやはり人の手が必 拝見しましても結合も人の手、鉄パイプ切断 なり、その先の救助に繋がってい 当たり前ですが人間の手と目が一番大切とい のあった声掛けは必須。更に資機材の部品を 体に負担をかけない取扱い方法など、どれも 練中であっても「よし!」「やめ!」など呼吸 貴重な経験。世の中を見渡せば、 会話やAIの登場で便利なこともある中、訓 ホワイトボードを用いた明解な説明と、身 く。そう考 **少要であり、** スマホでの

感謝いたします。 知識と鍛錬を積ん た関係者の皆様に でいく所存です。 ではなく、豊富な していただきまし 今後も技術だけ 当日まで準備を

港北区内の火災情報 平成31年4月1日現在 平成31年 平成30年 増△減 26 18 8 物野両 建林車船航そ 火災 0 0 0 0 0 0 種別 舶機他積 空の面 19 378 死 者 焼 死 者 放 女 自 食 傷 者 損 1 \triangle 害 0 2

火災発生状況 増<u>△減</u> 6 主な出火原因 主な原因 3 O

港北消防団本部・港北消防署幹部

整防第一担当果 整防第一担当果長 整防第一担当課長 整防第一担当課長

青新竹福大佐間久橋坂佐伊豊野吉浅久堤 木倉原田塚藤正我本詰藤藤田口野野保 浩信隆謙俊勝展剛岳匡久耕康賢長竜康 一治浩治作司正広彦史史作幸二慈夫弘